

自己評価および学校関係者評価

結果公表シート

(令和7年度)

くりのみ幼稚園・くりのみ保育園

1、本園の教育目標

集団生活の中で様々な経験を通して自立心や道徳心を身につけるとともに、自然や社会の様子について身近な事象からの経験を通して探求心や思考力を育てる。

2、令和7年度に重点的に取り組む目標・計画

1. 行事の時期や内容の見直し
2. 業務の効率化
3. 幼保こ小の接続・連携の強化

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取 組 状 況
1. 行事の時期や内容の見直し	・音楽参観を例年より 1 週間後ろに移動した。また、2 月中旬に実施していた「作品展」を、2 月末の保育参観と同日に移動し、展示内容や展示方法も変更した。時期や内容を見直した結果、子どもと保育者がゆったりと活動や製作等に取り組むことができた。
2. 業務の効率化	・メール配信システムを見直し、欠席・遅刻連絡や登降園、預かり保育等も管理できる園支援システムを新たに導入したことによって、業務の負担軽減につながった。 ・音響機器の操作について、講師の先生を招いて園内研修を複数回行った。編集用のパソコンや音響機器も新たに導入したことによって、運動会や生活発表会等の進行をスムーズに行うことができた。

・幼保こ小の接続・連携の強化	・今年度初めての試みとして、近くの義務教育学校に協力をお願いし、年長組の子どもたちが『小学校探検』に出かけて、小学校や義務教育学校がどんなところかを知る機会を設けた。また、本園の園庭で、近隣のこども園の子どもたちとの交流会を行い、同じ小学校へ進学する子どもたちとの横の交流を深めた。近隣の小学校や義務教育学校の幼保こ小交流会にも参加し、小学生との交流も図ることができた。 ・幼保こ小接続・連携に関する外部研修会に参加し、教育課程や内容のつながりについて学ぶとともに、幼保こ小教職員間の意見交流を通して、理解を深めることができた。
----------------	--

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

○行事の時期や内容を見直した結果、子どもと保育者がゆったりと活動や製作等に取り組むことができた。また、子ども達同士の話し合いや発表活動の時間が増えたことで、自分のことばで相手に考えを伝え、皆で共有したことを活動につなげることができた。 ○業務の効率化については、ICT 機器や園支援管理システムを導入したことによって、さまざまな面で効率化を図ることができた。 ○幼保こ小の接続・連携の強化については、新たに交流会を設けたことで、小学校との縦のつながりだけでなく、近隣の園との横のつながりを深めることができた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
・子ども理解と伝える工夫 ・業務効率化	・日常の子どもの姿や育ちを伝える工夫をし、一人ひとりの子どもについての理解を深めていきたい。 ・園支援システム(ICT)を活用して、クラス名簿や指導要録の作成、延長保育料の計算等も行い、より一層業務効率化を図っていきたい。

6、学校関係者の評価

従来から先生たちの目線は子ども本位であったが、保育の進め方や行事のあり方に関してもその視点をより反映させるような取り組みが認められた。

業務効率化については、新たに導入された園支援システムを活用することによって、登降園管理や登園状況の確認等、職員の負担軽減が見られる。

家庭や地域との連携についても、参観や地域との交流会などの園行事が充実し、ある程度達成できている。

子どもの育ちや保育の意図を先生たちと保護者がより共有できる媒体、伝え方の工夫が今後の課題と考えられる。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。